

夏を終って



— T雄の記録 —

夏休みに入る前、幼稚園でおこなったT雄の知能テストの結果を
ききに来るようにと、通知があった。

テストをなさった先生が、

「別に申しあげることもしません。」と、おっしゃったが、

「T雄が幼稚園で大分あばれておりますようですが、そんなことに
ついて……。」と、おききすると、

「私はテストをしただけで、いつもT雄ちゃんを見ているわけでは
ないのでわかりません。が、テストをしているかぎりでは別になん
の問題はありませんでした。テストをやりやすいと何ですけ
ど、まあ、やりやすいお子さんでした。」

私がまだ、いろいろおたずねするので、

「いつかT雄ちゃんのお話が出た時に、お家でおとな的に扱われ
すぎているんじゃないか」という意見も出しましたが、

「おとな的とおっしゃいますと？」

「私にもよくわかりませんが、と、いうことだった。

私は夏休み中、このよくわからなかった「おとな的」ということ
ばを何度か思い出した。T雄に対するとき、いつも「これがおとな
的かな」と考えることにしていた。
この意味のあいまいなところに、かえって自分の態度をいろいろ
な角度から検討する余地がのこされていてたいへんありがたかった
と思っている。

△夏 休 み▽

親としていつも次の事を念頭においた。

○まず丈夫な体をつくること

夏休みに入る前に、風邪やら、下痢やらで幼稚園を休むことが多
かったので、二期期は休まないように、何とか体を整えてやりたい
と思った。七月中に一度下痢をしたが、のち、ミヤリサンをのんで
元気な夏休みを過ごすことが出来た。

○思う存分遊ばせてやりたい

子どもはほっておけば自由に遊ぶもので、五才にもなって親が
「遊ばせたい」と思うのは少し、おかしくないか、と思われそうだ
が、思う存分遊ぶ場所がないのである。

庭は狭くて到底T雄のエネルギーは消耗しきれない。あたりは住
宅地でそれぞれに庭があるせい、公園など必要がないらしいし、
子どもの遊ぶ広場もない。家から十米くらいに遊園地があるが、高
い入場料と、一回いくらの「のりもの」が並んでいては、毎日の遊

びには向かない。

隣に庭がある。大家さんの庭である。

Ｔ雄より七ヶ月早い女の子がいて、一歳半の頃からよく遊んだ。

しかし、人間形成の上には、かんばしくないで、なるべく道路で遊ぶようにいつている。例えば

女の子なのでママゴトをする。Ｔ雄も側に坐っている。Ｔ雄が何か置こうとすると、女の子はいつも自分のやっている順序があるらしく、「これはここへ置かなければいけない」という。Ｔ雄は「僕がやってあげるから」といつて二人とも手を離さずつかみ合っている。女の子の祖母が側に必らずついていて、「ホラ、叩かれるよ」という。私が出て行つてＴ雄に別の遊びをうながす。

水遊びの場合を例にとつてみよう。

先方では、ビニールプールの中の水を汚さないようにといわれる。女の子もその弟もお行儀がいいので外にとび出すこともないし、またとびだしてもきれいに水をかけて入る。Ｔ雄は勢いあまつすぐとび出し、水を上手にかけないで少々汚れたままでとびこんでしまう。

そこでこの母（私）が注意する。先方への気がねからである。

縁側に張板が、斜めに橋のようにかけてある。縁側からプールに足を汚さずに入るためである。ユサユサ、バネになるようなところがおもしろい。先方で

「折れるといけないから二人一度に（Ｔ雄と女の子）のつてはいけ

ない、それにユサユサゆすつてもいけない。」と、おっしやつた。

それを喜んでツイ女の子がおりないうちにＴ雄がのつたり、ユサユサゆすつたりする。女の子は軽量だからいいが、Ｔ雄は重量であるから、また、この母（私）が声をかける。

すべてにこの調子でＴ雄の要求や行動が、私の相手方への気がねから私によって、別の方向へ別の方向へとむけられる。

そしてその場はそれでおさまるのであるが何度目かの時に、極点に達し大泣きをするのである。——当然のことである。

先方はちつとも悪くない。Ｔ雄が手をふりあげるから、母、祖母そろつて「アッ」と声をたてるのであるし、祖母がちゃんと側についてくださるのである。ただこの母が、「ああしやいけない、こうしやいけない」と口を出すのである。

この一二年は、よびかけのない限り道路で遊ばせたり、ちよつと遠くの公園へおべんとうをもつてつれて行くようにしていた。しかし、「欲求阻止にあうと大声でないたりして緊張を一時的に解消するが、深くのこつて防衛機制をつくる」と本に書いてあった。そのメカニズムの①から⑨までの項目のうちＴ雄がどの項目に当てはまるか考えてみたり、幼稚園でママゴトを一度もしないのはこんなところからきているかもしれない、他の子どもと接触したりするのもそうかな。第一あのおとな的に扱ふとはまさしくこれだと思つた。

Ｔ雄の小さいころを思い出してＴ雄が可哀相で申しわけなくて涙が出てきたと夫に話したら、「多くの母親は子どもを問題児にした

がるそうだ」と、いわれた。

「夏休みの記録をしなければならぬのに大分脇道にそれてしまった。」

以上のようなわけで、工雄を方一杯遊ばせたいと、海に二度連れて行った。母の実家へも連れていって好きなように遊ばせた。

お祭りの二日間も楽しかったらしい。

その他の日は、朝八時におきて、九時ごろから、テレビをみる。

三〇分ものを二つみる。そしてその主題歌を大きな声で合唱するのである。

日が高くなると水浴び。

友達がきそいに来ると、自転車で遊ぶ。

たびたび

「幼稚園へ行かないでつまんないな。」

「どうして。」

「だってブランコができないんだもの。」

と、いうので、少し離れた公園までお弁当をつくって出かけた。

幼稚園に行く前にずいぶんこの公園に通ったが、もっぱらスベリ台でブランコは恐がってのらなかった。

幼稚園に行くからブランコに乗れるようになったので、今ちょうどおもしろくて仕方ない時なのだろうか。歯をくいしばってこいでいる。

ジャングルジムと、ブランコをかわるがわるに一日で手にマメが

できるまでやった。

〈夏休み生活表について〉

私は始めての事なのでこの表の意味については、とにかくやってみなければわからないと思った。そして忠実に記してみようと思った。コチコチに緊張してこの表にむかったわけである。

その中から、二、三記してみると、

○おきたじかん、ねたじかん

記す時になってわからなくなった。おきたじかんとは、目がさめた時間なのか、床をはなれた時間なのか、同様にねた時間とは眠った時間なのか床に入った時間なのか。後者はその差一時間くらいになることがある。

休み前は、朝が早いからと「お休みなさい」をしてから寝つくまであまり時間はかからないが、休みになって解放感があるため、なかなか寝つかれない。

そこでいつからか、「お化けごっこ」をするようになった。家中の電気を消して、皆でカヤの中に入るのである。そして母が「フワフワお化け」やら「コチョコチョ（くすぐる）」お化け」を演じるわけである。しばらくキヤッキヤッすると

「ああおもしろかった。またあしたもお化けやってね。」

こうやって眠った瞬間、バツと時計をみて時間を記した。だから時刻が五十九分とか、〇時四十二分とか、はんばな数字である。

十日間ほどつけて、朝晩、緊張して時計をみるのも苦痛だが、果してこれが、この表に忠実なつけ方だろうか、と疑問がおこってきた。眠った時間よりも、何時に寝ようとしたか、(床についた)という方がもっと大切なことなのではないだろうか。

あたりまえのことではないか。その当りまえのことに十日間たつてやって気づくところに私自身の融通のなさ、緊張さかげんをみるような気がして恥ずかしかった。

それからは寝る時間の十五分前に「おぼけ」をはじめて、十五分たったら「お休み」をいって母はカヤを離れることにした。時計の針を気にしなくてもよくなったわけである。

○食後のうがい

朝晩の歯みがきの習慣はあったが、食後のうがいの習慣はなかった。いい事だから、夏休み後もつづくようにと思ったが、最後まで「うがいしましょう」といわないと出来なかった。しかし、食後、お腹のくすりをのんでいた時は比較的忘れなかった。

○や×をつけなくてもいい現在、母や子ども食後のうがいはしていない。

○ひるね

「きょうひるねしないから×をかいておいてね。」

私たちおとなはいいことをしたら○、悪いことをしたら×、というように感じをもっているの、こうきくと、ちょっとびびくりするが、T雄は、ひるねをしたらa、しなかったらbというような記

号と思うから平気だ。

ちよつと横になるが、眠ることはまれであった。

○よい子

よい子の欄記入にあたっては、別紙に具体例があげられている。

例えば(もう提出してしまつてくわしくは覚えていないが……)

○おかたづけができたとき、

○兄弟と仲よく遊べたとき、

○雨ふりに家の中で静かに遊べたとき、

○おつかい、おてつだいのできたとき、等々

まず記入する際に考えた事は、五才児は一日に、この中の一つが出来ればよいのだろうか。(欄の大きさは1×3センチくらい)とすると、T雄は一日のうちにおかたづけ、おてつだい、おつかいその他でよい子の数が多いから、「おとな的」に扱われすぎているのだろうか。

こうして考えているとき、近所の方に

「生活表の中によい子っていう欄があるのよ。どうかいいいか……」

一日のうちいろんな事があって」とだけいったら

「一つでもいいところがあれば、それを書くのよ。」

と、いわれたのでますますそうかなあ——と考えてしまった。

年長組のお母様に

「よい子の欄、どうお書きになりましたか。」と、うかがうと、

「子どもは一日のうちによい子と悪い子と何度も変わるので、わから

ないからうちなんかほとんど書きませんでしたのよ、適当にチラホラと……。」と、おっしやった。

私は、考えているうちに最後の日が来てしまった。最初の頃に「おかたづけができた」のように確実なものを書き、真ん中へんにあまり真っ白でもいいけない(?)からチラホラと、「妹と仲よく遊べた」と記入した。

しかし、こうやってもう一度考え直してみると、よい子だったら全部書き出し、妹と遊んで今仲よかったが、次にとり合いで無理にひたたくって泣かし、またすぐ仲よくなるという場合はおおむね仲良しと認めれば書くというようにしなかったのは怠慢であったと思う。

それにもまして、この欄を記入する目的をよく納得してなかったのはいけなかったと思った。

私の逢った母親たちは、皆、この表をつける目的(意味)に徹底している人はいなかった。私もそうである。ただ莫然と渡されたからつけているのである。だから、ちょっとわからなかったら、適当につけるだけである。

いいかげんにつけても、それで何にも気付かない人、いい加減につけるんだから無意味だという人、「この頃は○をつけなきゃならないから、よくやりますよ」と喜ぶ人、サッとつければいいのによく考え、あげくのはてにわからないといって、皆に「理くつッぽい

お母さんだ」といわれては困ると沈黙している私などがあつた。

今年、T雄はまだ小さいので、○をつけるために何かをするようでは、と思ひ、私がひとりでつけた。おかげでいろんなことがわかつた。好き嫌いが無いと思つたのに「もやし」が嫌いだったり、手を洗うことがよくできると思っているのに、洗わないでたべてしまふことがあつたり、である。

来年はT雄も大きくなるから、T雄につけさせてみよう。夏休みのはじめ、よくつけ方を先生にうかがつて。

それによい子の欄にこういうのをつけ加えたらどうだろう。休みに入つた日に親と子で話しあつて、「よい子」の中から、そ

の子にふだんできにくいことでせひやつてほしい事柄を一つ選ばせる。例えば、妹を泣かしてばかりいる子どもは「妹に親切にする」を選ぶ。それについてできた日には「よい子」に書くのである。ふだんできにくいことだから、一回でも親切にできたら、それでいい。そしてお食事の時にでも、

「きょうはお兄ちゃんの見ている本を○子がとりに来たとき、別の二本をもつて来てあげて、おりこうだったわね。」

と、書くだけでなく、ことばをかけてやつたらどうだろう。母親はもつと記入しやすくなると思う。

叱つてばかりいる母親にも、良かった時に認めてやる態度もでき、効果もあがると思う。

〈夏休みを終つて〉

丁雄と母の会話

「きょう、僕のおとなり先生がすわつて、おべんとうたべたんだよ。」

「そう、丁雄ちゃんのお隣りはお休みだったの。」

「あのね、毎日、順番があつて、先生のすわるところきまつてるの。」

「そう。」

「真ん中の人はいいよ。」

「どうして。」

「だって先生がどっちへ坐つてもとなりでしょ、うらやましくつて。」

「○○ちゃん、あなたのとなりでしょ。」

「ウン、ちがう。○○ちゃん」

「あら、そう。」

「うん、おひっこししたの、それでね、またもとに帰つてきたから。」

「ふーん。」

「いたずらしてね。」

「へえ。」

「何のいたずらしたかわすれちゃったけど、ぼく、よっぽどひどいいたずらしたんだね、きつど。お席かわるくらいだもの。」

「ふん、ふん。」

「ほんとはもつとすごいいたずらしたんだ。」

「どんな。」

「お母さんおこらない？」

「おこらない。」

「人間おつことしても。」

「ええどこから。」

「おゆうぎ室の壇の上から。」

「どうしておつことしたの。」

「だって、あきちゃつたんだもの。」

「あきたからつて、何もしない人をおつことしたらいけないでしょ。」

「ウン」

「男の子？ 女の子？」

「女の子。」

「けがしなかった。」

「さあ、どうかな。だけど泣いたよ。」

（おとしよりの日にやるらしいお話とうたの練習中とのこと。）

「お母さん、○子ちゃんとね、○子ちゃんがね。ぼくのこと追いかけるから、僕逃げるのにたいへんなの。」

「どうして追いかけるの？」

「僕が好きなんだってさ——。」

「じゃあ逃げなくてもいいじゃないの。」

「そうすると、この暑いのに、ひつつくんだよこうやって。」

母にまねをしてみせる。

毎朝こういう。

「あーあ、今日も逃げるのか。にげてるとき〇男ちゃんが遊ぼうっていうから、逃げなくちゃならないし……。」

「〇子ちゃんと〇子ちゃん、僕のことお兄さんというんだ。」

結構たのしそうである。

父と母との会話

「この頃、幼稚園でT雄はどうだ。」

先生が「二学期に入ると、たいていの人が落ちつくから二学期に入って少し様子をみましょう。」とおっしゃったので、まだうかがっていないけど……。T雄の話じゃ相変らずらしいわよ。」

「T雄から話をきくだけだし、この間の幼稚園での記録も、T雄の記録だから他の子どもたちの事はわからない。だから、他の子どもは何もしていないのに、T雄がひとりだけハメをはずしているような感じだね。」

「そうね、親としては他の子どもの様子も知りたいわね。」

「T雄は家にいる時はよく頭で理解しようといったところがあつ

て、分別くさいけど、幼稚園へ行くと、気持の持ち方がちがうのかな。」

「そうね、母親のよい悪いの規準が自然と頭に入ってるって感じ、幼稚園へ行くとそれがたち切れるから、あれで自分の規準が幼稚園でできてくれば。」

「何しろエネルギー発散型だから、体でぶつかってるって感じだね。」

「下の女の子には、母と子、保護者と被保護者という感じで、例えば水たまりがあつたらだまって抱き上げて渡してしまうという気持ち、T雄は、自分の兄弟みたいな感じで、この水たまりとべるかな、とんでみようよ」と二人手をつないでとびこす、というような気持の上にちがいがあつたような気がするわ。」

それだけに私の希望がすーとT雄の希望に浸透しているようよ。親のごきげんをとるとか、昔からの親孝行とちがった私の心とに密接な心の結びつきがあるみたい。子どもだから、家でも悪い事をしない分するが、私がちよつとT雄を見たり、ほほえんだりするとやめるところがあるわね。それが、「おとな的に扱われている」につながるということかも知れないわね。そして、そういうことが幼稚園へ行つて何かするということになるのかもしれないわ。」

「それにしても、他の子どもたちがどのようになっているか、T雄のしていることがどの程度のものかを知りたいね。むやみに問題児にしてもいけないから。」